

平成26年度 第1回島原脳卒中地域連携研究会議事録

1. 日時 平成26年5月22日(木) 18時30分～20時00分

2. 場所 島原病院 別館研修ホール

3. 参加施設と参加人数 総数93名・26施設

島原病院	11	GH たけふえ	5	GH 菜の花Ⅰ	5
安藤病院	1	GH 長庚堂Ⅰ・Ⅱ	6	GH 菜の花Ⅱ	2
池田病院	1	GH ふれあい	5	GH かづさの杜	1
柴田長庚堂病院	1	GH 親和	4	GH 南風	2
老健フォンテ	2	GH 親和2ユニットⅠ	3	GH 茜雲	3
県南保健所	1	GH 親和2ユニットⅡ	6	短期入所生活介護いきいきハウス若竹	6
NPO 法人島原ケアプランセンター	7	GH しおさい	4	GH サンテの丘	1
GH 野の花	5	GH 心	5		
NPO 法人 HAPPY LIFE	4	GH 椿高野	2		

4. 議事

18:30～ 司会・オリエンテーション 老健フォンテ 永石 博範

18:31～18:34 開会の挨拶 島原病院 高次脳卒中センター長 徳永 能治

本日は島原脳卒中地域連携研究会の本年度第1回となります。テーマとして医療と介護の連携を挙げております。医療と介護の連携は、今、注目されている話題ですが、実際にはいろいろな形があり、地域にあったより良い形での連携をしていくためにはどうすればよいのか、まだ分かりにくい部分があり難しい問題です。

今回は特に介護施設で急変したら、どうしたらよいのかということについて考えたいと思います。搬送すべきか、見守りでよいのか、マニュアルがあればよいのか、微妙で難しい問題があります。事前にアンケート調査に協力していただいております。少しでも皆様の役に立てる情報を持って帰って頂きたいと思っております。それでは早速事前調査の報告からしていただきたいと思います。

議事1

18:34～18:42 介護施設における救急受診等に関する事前調査報告(別紙参照)

島原病院 脳卒中センター 吉田

議事2 事例報告

18:42～18:49 「グループホームでの急変対応場面報告」

グループホーム 野の花 谷口 広尚 管理者

18:49～19:03 「医療と介護の連携～介護施設で急変したら～」

グループホーム サンテの丘 石橋 禎久 管理者

議事3

19:03～19:29 講義「介護施設での急変および救急受診の対応について」

島原病院 救急看護認定看護師 木村 美智留

19:30～19:55 質疑応答

永石：報告ありがとうございました。それでは発表者の4名に前に出させていただいて、質疑応答の時間をとりたいと思います。最初に吉田さんの方から資料の情報提供カードについて簡単に説明をお願いします。

吉田：実際救急車で来られた場合に病院側が欲しい情報をシートにまとめたものです。鹿児島県で情報提供カードを使用していましたので、参考にして作成しました。特に体内金属の有無の欄など追加しました。用紙の上半分は事前に情報を記入していただいて、下半分は具合が悪くなった時のことについて記入するようになっています。まだ作成したばかりですので、実際使用してのご意見を頂き修正していけたらと思っております。

永石：ありがとうございます。グループホームの谷口さんと石橋さん、お二人にお聞きしたいのですが、実際に受診される場合は、どのような情報を持っていくように心がけていますか？

谷口：利用者ごとに個人ファイルを作成して情報提供カードに記載してあるような内容が記載してあります。また、緊急用に保険証や介護保険証をまとめて袋に入れてあるので、いつでも持ち出せるようにしています。

石橋：カルテに必要な情報が入っているので、カルテを受診時には提示するようにしています。

永石：ありがとうございます。他の施設の方はどうでしょうか？長庚堂さんはどうされていますか？

川田：長庚堂の川田です。情報提供カードとしてフェイスシートを作成しております。ここに書いてある内容はほとんど記載されていますが、ペースメーカーやステントなど体内金属については詳しく聞き取りしていなかったもので、参考になりました。

永石：ありがとうございました。

木村：事前アンケートでいくつか質問がありましたので、その分の回答をさせていただきます。

Q1：救急車の到着まで時間がかかる。新人が多く急変に対応できるか不安

A1：救急車到着には8分くらいかかりますので、心肺停止の場合は先ほどお話しましたBLSを参考にさせていただければと思います。

Q2：救急車を要請するか、施設の車で搬送するのか判断はどうしたらよいのか。

A2：個人的な見解ですが血圧など測定し、息もしているし心臓も動いている状態で普段通り話もできるのであれば施設の車で構わないと思います。

ポイントとして、急変する際には、まず皮膚が湿ってくるため、皮膚が湿っていないか確認をするとよいでしょう。嘔吐や腹痛・下痢の場合は水分補給できているかどうかポイントとなります。水が飲めないような状態の場合は脱水など緊急性が高くなりやすいため救急車が望ましいでしょう。しかし、それ以外でもやはり心配だと思えば救急車を利用するようにしてほしいです。

Q3：意識がはっきりしていないとはっきりした時、パニックになり何を優先すべきか分からない。

A3：まず、優先すべきは意識がはっきりしていなくても息をしているかと心臓が動いているかの確認をすること。その上で、意識もうろうとしている場合には返事が無くても傍を離れず、安心するような声かけを続けるようにください。

Q4：鼻血が止まらずに大村の医療センターに運ばれた。午前4時でも市内で受診できる環境を作ってほしい。

A4：こちらは徳永先生にお任せしたいと思います。

永石：ありがとうございます。徳永先生いかがでしょうか？

徳永：その方については詳しくわかりませんが、鼻血が止まらない状態は救急対応が必要な状態ですので、耳鼻科と問わず救急病院では受け入れてもらえます。

しかし、その病院でも血が止まらない場合は、更に違う病院へ運ばれる場合もあります。

永石：ありがとうございます。その他も含めて、皆さんにアドバイスなどをお願いします。

徳永：今日はBLSの話ができました。まずは息をしているか、心臓が動いているのかの確認をしなければなりません。心臓が動いているかの確認は脈を触れますが、太い動脈で一番触れやすいのが首の頸動脈です。これは大体だれでも触れることができます。救急車を呼んだら、出来る人はBLSをしてください。そして救急隊が到着したら後は任せ、情報をしっかり伝えることが大事です。先ほどの情報提供カードなどが役立つと思います。

救急車を呼ぶかどうかについては、軽い症状であっても、いろいろな症状が重なれば救急対応の状態の場合もありますので、症状が軽い場合には他に症状はないか確認するようにしてください。また脳卒中については、軽い麻痺だけでも必ず救急車を呼ぶことが大事です。症状の軽さだけで判断しないようにしてください。どうしても迷う場合は救急車に電話をしてもいいかと思います。そのような経験を重ねることで分かるようになってくると思います。

永石：ありがとうございました。皆さんの方から質問などはありませんか？

石橋：先ほどグループホーム野の花にはAEDがあるということでした。各施設の方にお聞きしたいのですが、AEDが設置されている施設はどのくらいありますか？

永石：AEDのある施設の方は挙手をお願いします。

挙手はショートステイHAPPY LIFE、グループホーム南風、池田病院通所リハビリです。

石橋：今日の話聞いてBLSの重要性を再認識したので、グループホームのスタッフも研修会に参加した方がよいと思い聞いてみました。

永石：ありがとうございました。それでは時間より少し早いですが、質疑応答を終わりたいと思います。

19：55～19：58 閉会挨拶 池田病院 リハビリテーション科部長 高柳 公司

皆様お疲れ様でした。今回の研修は医療と介護の連携の中でも、介護施設と救急病院から糸口をとということで研修会を企画いたしました。

今回は施設から病院への連携でしたが、逆に病院から施設への連携もあります。

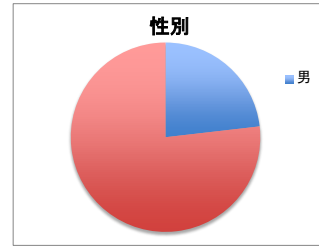
病院から施設への連携はお互いの求める事に隔たりがあることも多いのですが、今後、医療・介護を支えていくためにはお互いが歩み寄って連携していくことが必要だと思っています。また、今後は介護施設でも重症で医療が必要な利用者をぎりぎりまで見ていく事が必要になってくると思いますので、このような機会の中で情報を得たり、意見交換ができればと思います。これからもご協力のほどよろしくお願いします。

平成26年度 第1回 島原脳卒中地域連携研究会・アンケート集計

平成26年5月22日開催

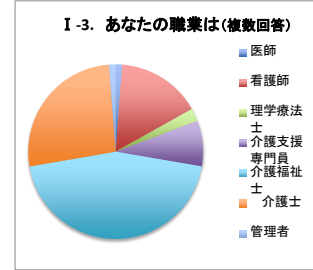
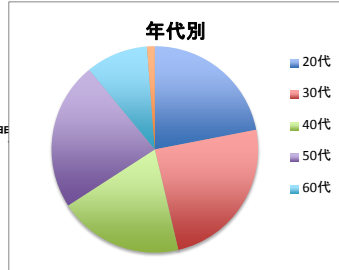
集約数	82
回収率	88.2 %
性別	
男	19 23.2%
女	63 76.8%
無回答	0 0.0%

年齢	
20代	18 22.0%
30代	20 24.4%
40代	16 19.5%
50代	19 23.2%
60代	8 9.8%
無回答	1 1.2%



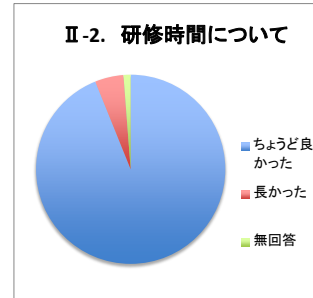
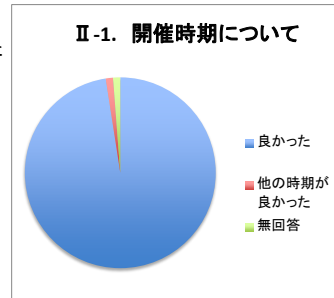
I-3. あなたの職業は(複数回答)

1	1	1.2%	医師
2	13	15.9%	看護師
3	2	2.4%	理学療法士
4	7	8.5%	介護支援専門員
5	37	45.1%	介護福祉士
6	22	26.8%	介護士
7	1	1.2%	管理者
8	2	2.4%	無回答



II-1. 開催時期について

1	80	97.6%	良かった
2	1	1.2%	他の時期が良かった
3	1	1.2%	無回答

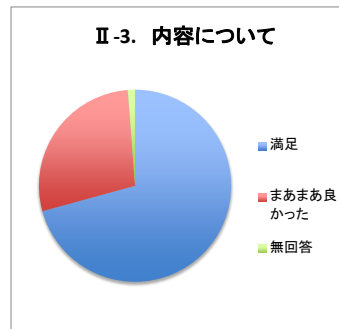


II-2. 研修時間について

1	77	93.9%	ちょうど良かった
2	4	4.9%	長かった
3	1	1.2%	無回答

II-3. 内容について

1	58	70.7%	満足
2	23	28.0%	まあまあ良かった
3	1	1.2%	無回答



II-4. 今後に活かせるか

1	28	34.1%	大いに活かせる
2	52	63.4%	活かせる
3	2	2.4%	少し活かせる
4	0	0.0%	無回答

II-5. 参考になったこと(複数回答)

1	56	救急対応
2	36	救急受診時対応
3	40	情報提供カード
4	28	救急車の呼び方
5	30	各施設マニュアル
6	18	頭部外傷後の注意

